

# JLSR ニュースレター

## 「どのように語ったか」を分析すること

荻原 まき

研究のため、フィールドを訪れ、インタビューを行う。私は「非構造化インタビュー」方式を取っているため、少しの質問事項を準備するだけで、あとは語り手とのやり取り、対話の流れの中で聞きたいこと聞く、というスタイルとなっている。動画を撮っていることもあり、帰宅してからゆっくり見直すことも可能である。動画のデータは聞き手にとっては非常にありがたく、細かいところまで何回も聞きなおすことができ、便利だ。特に筆者の場合、フィールドが海外ということもあり、聞き逃したところがあった場合、「じゃまたすぐ来ます」というわけにもいかないため、自宅で動画を何回も見直すことでデータの精度をあげることが可能となった。書き起こしについても、テープを一回一回止めて手書きをしていた時代が、今は一瞬で(もちろん自身での確認作業が必要であるが)書き起こしができるようになり、研究者の負担もかなり減少された。

とりわけ、動画で撮影してのインタビューは、コミュニケーション研究、相互行為研究をしている筆者にとってなくてはならないものとなっている。それは聞き逃したところを再度聞くこと、つまり「何を語ったか」を確認するだけではなく、「どのように語ったか」がじっくり分析できるからだ。「どのように語ったか」、つまり「語り方」の分析は、「何を語ったか」の分析よりも、より本音が見え隠れするのではないかと思うこともある。「沈黙」や「言いよどみ」があれば、何か言いにくいことがあることを指標しており、「沈黙」をもって「語っている」といえよう。また非言語コミュニケーションにあたる「視線の動き」や「手の動き」においても、まっすぐ聞き手を見て語っているのか、遠くを見て語っているのか、過去を語る際の手の動きはどうだったかなど、文字だけでは決してわからない、その語りの奥にあるものが見えてくるであろう。これは桜井(2002;2012)のいう、「物語世界」と「ストーリー領域」に繋がってくる。遠いところを見ながら語るのは、過去を思い出しながら話すことが多く、それは「物語世界」を意味する場合がある。また、語り手がまっすぐ聞き手を見ながら「～ですね」などというときは「今ここ」の語りとなり「ストーリー領域」での語りとなる。「ね」(＝「今ここ」で相手に確認や同意を求めたりする終助詞)などの言葉の語尾一つで、語り手が今どのような相互行為をしている/しようとしているのかが明瞭となるのである。加えて、聞き手(研究者)の、どの質問、どのような態度に対しての語り方なのかも関係し、さらに聞き手、語り手の背景、インタビューの場所、その日何をしてきてからのインタビューなのかなど、いわゆる「コンテキスト」が非常に影響することもある。例えばインタビューの場所が変わったことにより、語りの変容が起こることもある(荻原, 2018)。

つまり、「何を語ったか」は、コンテキストを含めた「どのように語ったか」がなければ存在しない語りとなる。さらに言えば「何を語ったか」については、直接聞き、文字化されるので、聞き手(＝研究者)の意識にのぼりやすい語りとなるだろうが、「どのように語るのか」は非言語、コンテキストの分析となるため、意識にのぼりにくい語りとなるだろう。

そのためにはやはり、データと深く向きあうことが重要となる。何度も何度もスクリプトを読み、動画を見直し、語り手と聞き手の関係性をしっかりと把握する。そうすれば自ずと語り手が(本当に)語りたいことが浮かび上がってくるといえよう。そこまで見て分析することによってはじめて、いわゆる「分厚い記述」となるといえるのではないだろうか。

#### 参考文献

荻原まき(2018)「台湾原住民の日本語世代のライフストーリー:『インタビューの場』と語りの変容」『語りの地平』3 日本ライフストーリー研究会。

桜井厚(2002)『インタビューの社会学:ライフストーリーの聞き方』せりか書房。

桜井厚(2012)『現代社会学ライブラリー:ライフストーリー論』弘文堂。

(おぎわら・まき 桜美林大学)

## 会員工ッセイ

### 重要な他者

#### 早藤夕子

私の中にひっかかっている言葉がある。「重要な他者」である。イヤな予感がするため知らないふりをしてきたが、最近そうもいけなくなり本を手にとった。精神科医水島広子の対人関係療法の中でこの言葉は登場する。対人関係とは三層の円をなしており、「重要な他者」である配偶者や家族、親は円のど真ん中にくる。この人たちとの関係が心身の健康に深く影響するという。

多くの人は「重要な他者=大切な人」かもしれない。しかし私は首をかしげて、悩むというより思考を止めてしまう。その灰色なものをポケットに入れて持ち歩き、毎日を過ごしている。おそらく私のコミュニケーション能力の貧弱さが招いた結果なのだろう。幼少期から培った生存戦略の一側面でもあるから仕方がないとも思っている。

そこからうっすら気づいたこともある。私のインタビュー経験はわずかであるものの、その度に「侵襲的な行為になっているのではないか」、「語りを搾取してないだろうか」と不安を感じていた。もしかするとこの感覚は、私と例の「重要な他者」との関係から派生してきたものだったのかもしれない。そんな風にも思えてきた。さて、これはどうしたものか…とりあえず今は思考を止めて、押し入れの奥にしまっておこう。

### 念願かなって、研究所へ

#### 大川裕司

私がライフストーリー研究所の集まりに参加するようになったのは、コロナ禍、「ズーム」が世間に浸透してきたころである。豪州はシドニーからのズームでの参加。南半球は日本とは季節が逆だから、他の人がセーターを着ているのに、一人こんがり日焼けした状態での参加。カメラはいつも定位置にあるから、ズーム越しに見える「ライフストーリー研究所」は限定的である。奥に見えるドアは玄関なのか、別の部屋への入り口か。ちょっとだけ見える本棚にはどんなライフストーリー関連の本が並べられているのか。桜井先生が「今日のお昼はカレーですよ」と言って姿を消していく方向にはキッチンが多分あって、誰かが先生と対面で話しているから、おそらくオープンキッチン？ ずっと妄想してきたライフストーリー研究所に、今年の4月、念願かなってお邪魔することができた。

小淵沢の駅で、桜井先生、大谷さんが温かく迎えてくださった。車で10分の一軒家。中に入る。そうか、いきなり階段のスタイルだったのか。玄関を上がって、すぐにドア。ズーム越しに見ていたのはこのドアか。本棚にはライフストーリーの名著がたくさん並べられている。やっぱりオープンキッチンだったけど、想像していたよりもずっと味のある材質。そして、キッチンの中で実際に動く桜井先生も見える。色んな人が座っていた椅子に、私は座っている。

美味しいお菓子と甲州のワインを頂きながら、身の上話をさせてもらい、これまで桜井先生のご著書を読みながら溜め込んできたいくつかの質問をさせてもらう。桜井先生、大谷さんが私の研究について聞いてくださる。アドバイスをくださり、「それで良いと思うよ」とさりげ

なく自信をつけてくださる。桜井先生も大谷さんも想像していた通りの優しいお人柄だ。

お二人が席を少し外され、豪州に帰ってどう博論に取り組んでいこうかなと考えていると、鳥のさえずりがきこえてくる。本当に研究所にいるんだなあと思う。あたまの中で博論の章立てを考え、研究の意義を再考し、自分の研究分野にどんな貢献ができるのだろうかと思考をめぐらせる。いただいていたコーヒーの残りが冷たくなって、気づけば、部屋の中が薄暗くなり始めていた。

ライフストーリー研究所の建物を出る。建物の角っこにフェイスブックで見たライフストーリー研究所の小さな看板を目視し、これは！と思い、桜井先生と大谷さんと一枚ずつ、看板の前で記念撮影のお願いをさせてもらう。ようやくお邪魔できたライフストーリー研究所での3時間は、本当に夢のようであった。だから時どき記念写真を見返しては、その「3時間」を思い出し、これからも豪州でライフストーリーの研究を続けていこうと心に思う。

## 2024 年度総会報告 (第 10 回)

2024 年 6 月 2 日に、2024 年度総会が行われ、以下の議案が異議なく承認されました。

### 第 10 回総会議事録(要約)

【日時】2023 年 6 月 2 日(日)13:30～15:30

【場所】(社)日本ライフストーリー研究所

(第 1 号議案) 2023 年度事業・活動報告  
以下の議題について報告が行われ、承認された。

1. 会員の入退会
2. 文献・資料の整理、収集
3. 研究会・講習会・シンポジウム
4. 発行・発刊(ニュースレター、研究誌)
5. ホームページと Facebook
6. 交流会と施設利用等

(第 2 号議案) 2022 年度決算報告

#### (1) 収入の部

| 項目 | 2023 年度決算 | 2023 年度予算 | 比較増減     |
|----|-----------|-----------|----------|
| 会費 | 761,000 円 | 680,000 円 | 81,000 円 |

|         |             |             |           |
|---------|-------------|-------------|-----------|
| 寄付金・カンパ | 20,000 円    | 10,000 円    | 10,000 円  |
| 利子      | 0 円         | 0 円         | 0 円       |
| 研究誌販売   | 92,000 円    | 100,000 円   | △8,000 円  |
| 講習会     | 204,000 円   | 200,000 円   | 4,000 円   |
| 研究相談    | 20,000 円    | 30,000 円    | △10,000 円 |
| 合計      | 1,097,000 円 | 1,020,000 円 | 77,000 円  |

#### (2) 支出の部

| 項目       | 2023 年度決算   | 2023 年度予算   | 比較増減       |
|----------|-------------|-------------|------------|
| 総会費      | 11,534 円    | 5,000 円     | △6,534 円   |
| 文献資料購入費  | 7,540 円     | 5,000 円     | △2,540 円   |
| 研究誌作成費   | 398,000 円   | 400,000 円   | 2,000 円    |
| 研究会開催費   | 9,293 円     | 10,000 円    | 707 円      |
| 交流会開催費   | 3,658 円     | 5,000 円     | 1,342 円    |
| 事務用品費    | 75,409 円    | 35,000 円    | △40,409 円  |
| web通信管理費 | 37,510 円    | 43,010 円    | 5,500 円    |
| 通信費      | 110,060 円   | 80,000 円    | △30,060 円  |
| 研究所消耗品費  | 69,494 円    | 27,000 円    | △42,494 円  |
| 研究所管理費   | 102,000 円   | 80,000 円    | △22,000 円  |
| 研究所維持費   | 166,272 円   | 160,000 円   | △6,272 円   |
| 会議費      | 106,160 円   | 140,000 円   | 33,840 円   |
| 年会費      | 6,000 円     | 5,100 円     | △900 円     |
| 税金       | 21,000 円    | 21,000 円    | 0 円        |
| 予備費      | 0 円         | 3,890 円     | 3,890 円    |
| 合計       | 1,123,930 円 | 1,020,000 円 | △103,930 円 |

#### 《収支について》

収入合計 1,097,000 円－支出合計 1,123,930 円=△26,930 円

\* 赤字分は代表理事からの寄付金にて補填

2023 年度の決算と会計監査報告(監査委員:田中政明、早藤夕子)が行われ、承認された。

#### (第 3 号議案) 2024 年度事業・活動計画

以下の議題について事業活動計画案が説明され、承認された。

1. 会員の拡大と交流
2. 文献・資料の整理、収集

1) 森岡清美資料室の開室に合わせ、所蔵資料の収納と整理、アーカイブ化の推進 2) ライフストーリー、ライフストーリー、オーラルストーリー関係の文献、各地の関連調査資料収集 3) 所蔵文献・資料を整理し、会員の利用を促進

3. ホームページと Facebook の充実と活用

#### 4.研究会の開催

- 1)研究会の開催 2)研究集会の開催 3)森岡清美資料室開室記念シンポジウム

#### 5.講習会の開催

#### 6.森岡清美資料室

- 7.発行・発刊 1)ニュースレターの発行 2)研究紀要『語りの地平——ライフストーリー研究』第9号、発行11月30日

#### 8.研究相談の実施

#### 9.研究所施設利用

#### 10.運営委員会の構成

### (第4号議案)2024年度予算

#### (1)収入の部

| 項目      | 2024年度予算   | 2024年度予算   | 比較増減    |
|---------|------------|------------|---------|
| 会費      | 730,000円   | 680,000円   | 50,000円 |
| 寄付金・カンパ | 10,000円    | 10,000円    | 0円      |
| 利子      | 0円         | 0円         | 0円      |
| 研究誌販売   | 100,000円   | 100,000円   | 0円      |
| 講習会     | 200,000円   | 200,000円   | 0円      |
| 研究相談    | 30,000円    | 30,000円    | 0円      |
| 合計      | 1,070,000円 | 1,020,000円 | 50,000円 |

#### (2)支出の部

| 項目       | 2024年度予算   | 2024年度予算   | 比較増減    |
|----------|------------|------------|---------|
| 総会費      | 5,000円     | 5,000円     | 0円      |
| 文献資料購入費  | 5,000円     | 5,000円     | 0円      |
| 研究誌作成費   | 400,000円   | 400,000円   | 0円      |
| 研究会開催費   | 10,000円    | 10,000円    | 0円      |
| 特別研究会費   | 5,000円     | 5,000円     | 0円      |
| 事務用品費    | 35,000円    | 35,000円    | 0円      |
| Web通信管理費 | 43,010円    | 43,010円    | 0円      |
| 通信費      | 80,000円    | 80,000円    | 0円      |
| 研究所消耗品費  | 47,000円    | 27,000円    | 20,000円 |
| 研究所管理費   | 100,000円   | 80,000円    | 20,000円 |
| 研究所維持費   | 160,000円   | 160,000円   | 0円      |
| 会議費      | 140,000円   | 140,000円   | 0円      |
| 年会費      | 15,000円    | 5,100円     | 9,900円  |
| 税金       | 21,000円    | 21,000円    | 0円      |
| 予備費      | 3,990円     | 3,890円     | 100円    |
| 合計       | 1,070,000円 | 1,020,000円 | 50,000円 |

以上、2024年度予算案が提案され、承認された。

#### (第5号議案)役員の変更

役員の変更が行われ、櫻井厚が代表理事(留任)に選出され、賛成多数で承認された。

## ライフストーリー研究会 開催報告

### LS研6月例会

日時:2024年6月16日(日)13:30~16:30

報告者:松本美香子さん(早稲田大学大学院)

報告タイトル:東日本大震災を経験したカトリック信徒の信仰の意味と言語使用

概要:本発表では、東日本大震災を経験した日本人信徒(S氏)、外国人宣教師(A氏)、外国人信徒(R氏)の語りから、それぞれが、どのように教会と関わりながら日本での生活を送っていたのか、日本での言語使用はどのようなものだったのか、を明らかにする。

## ライフストーリー研究会 7月例会のお知らせ

日時:2024年7月21日(日)13:30~16:30

場所:日本ライフストーリー研究所

リアル参加(約5名)およびオンライン参加

報告者:烏山房恵さん(一橋大学大学院生)

報告タイトル:日本語が拓く南米日系人介護労働者のキャリア形成

概要:日本で働く外国人介護労働者の中には、デカセギとして来日し、製造業で単純労働に従事した後に、介護士に転職していった南米日系人介護労働者が存在する。本報告では、3名の南米日系人介護労働者にライフストーリー・インタビューを行い、デカセギ南米日系人介護労働者のキャリア形成における問題やその解決策を探った。

★報告者は随時、募集中です。メールにてお問い合わせください。『語りの地平』に投稿希望の方は、ぜひとも、報告をお願いいたします。

**参加者募集！！**  
**ライフストーリー研究会**  
**第10回 研究集会**

例年、8月に開催してきた夏期研究集会ですが、今年度より特別研究会と統合し、研究集会(第10回)として9月に開催することになりました。申し込み方法等の詳細は、ML であらためてご案内いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

**テーマ:** みんなでじっくり語り合おう！ vol.3 「インタビューの対話における気づき、驚き、悩ましさ」

**開催要旨:** ライフストーリー・インタビューにおける対話とは何か？を一緒に考える研究集会を開催します。まだインタビュー未経験の方の参加も大歓迎です。「インタビューイである私」が過去のトランスクリプトを読み返す、声を聞き返す経験を通して、改めて考え、感じたことを報告します。そして、みなさんでじっくりと語り合ひましょう。「対話的構築法」の真髄を探求してみませんか。

\*\*\*\*\*

**日時:** 2024年9月15日(日)10:30～16:00  
(終了後懇親会)

**場所:** ハイブリッド  
(日本ライフストーリー研究所／オンライン)

**参加費:** 無料

\*\*\*\*\*

**プログラム:**

10:30～12:30

- ・報告 3名
- ・ブレイクアウトセッション

12:30～13:30 (昼食・休憩)

13:30～15:30

- ・報告 3名
- ・ブレイクアウトセッション

15:30～16:00

- ・全体討議・総括

16:00～

・懇親会(軽食と飲み物を用意します。オンラインでの参加も歓迎します)

第20回  
ライフストーリー  
調査研究講習会  
参加者募集!!

**【注意】**第19回ライフストーリー調査研究講習会の内容とほぼ同じです。

**☆開催日時:**

2024年7月28日(日)  
10:30～16:40

**☆テーマ:** ライフストーリー研究の  
基礎理論——対話的構築法への  
軌跡

第1講: ライフヒストリーからライフストーリーへ

——調査法の転回と展開

第2講: 対話的インタビュー

——問われる調査研究者

第3講: 生活世界から社会的世界へ

——解釈ツールとしての社会的資源

**☆定員(先着順):** 20名

**☆申込:** [研究所 Web](#) からお申込みください。(締切7月21日)

**☆受講料:** 会員: 3,500円

非会員: 5,000円

・参加者には申込確認と受講料支払いのメールを致しますので、その後、参加費の振り込みをお願いします。

**☆お問い合わせ**

[jlsr\\_info@lifestory.or.jp](mailto:jlsr_info@lifestory.or.jp) へお願いします。

## 新入会員(2024年4月以降、順不同)

貞安 薫(お茶の水女子大学大学院生)  
奥村 真生(日本大学大学院生)  
烏山 房恵(一橋大学大学院生)  
寺前 建佑(中央大学大学院生)

## 受け入れ論文、図書、報告書

2024年4月11日~7月14日(下線は会員)

論文、報告書、著書などをお送りください

- ・江口千代編,2024『軍港都市(呉)の子育て環境を生きた子どもたちのライフストーリー』広島国際大学(大庭悠希、桜井厚分担執筆)。
- ・樫田美雄・栗田宣義編,2024『社会学者のための論文投稿と査読のアクションリサーチ』新曜社(吉村さやか分担執筆)。
- ・桜井厚,2024「フィールドワークにおける調査研究者の隠された特権」, *Journal of International Communication*, no.27, pp.1-20, SIETAR JAPAN 2024.

## 研究相談について

八ヶ岳の研究所に来所することが困難という方のご要望に応じて、ZOOMでの相談を受け付けています。

相談時間は3時間程度、費用は5,000円になります。(詳細はお問い合わせください)

ご希望の方は、[jlsr\\_info@lifestory.or.jp](mailto:jlsr_info@lifestory.or.jp)までご連絡ください。

事務局から

すずろごと

○ 昨年から続いている「森岡清美資料室」の建築は、ほぼ内装が終わりに近づいている。文書箱収納棚の造作が終わり、書籍用本棚も設置が完了した。あとは、

テーブルの設置と電気の配線などの作業を残すのみとなった。また、入口のデッキは、塗装を残してほぼ完成した(写真参照)。天気次第だが、あと1,2週間の間に収納準備が整う予定だ。8月から森岡清美宅からの文書や書籍の移送が始まり、9月中には、一応、収納を完了したいと考えている。10月13日(日)には、開室記念式を予定している。八ヶ岳山麓の紅葉シーズンのよい季節を想定して日程を組んだつもりだが、天候不順のこの頃だからはどうか。DIYのようにわが意思だけで日程を組めるのとは違い、地球温暖化の影響は予測不能、文字通り、それはお天道様にしかわからない。(SA)



## 事務局からのお願い

### 年会費の納入についてのお願い

研究所は皆さまの会費で運営をしております。年会費を未納の方は、お振込みをよろしく願います。2年間未納の場合は、研究誌は発送されません。また、自動的に退会となりますので、ご注意ください。

### 入退会のご案内

入退会のお申込みは、以下までご連絡ください。  
E-mail: [jlsr\\_info@lifestory.or.jp](mailto:jlsr_info@lifestory.or.jp)

## (社) 日本ライフストーリー研究所

〒408-0032 山梨県北杜市長坂町大井ヶ森 1176-489

E-mail [jlsr\\_info@lifestory.or.jp](mailto:jlsr_info@lifestory.or.jp) HP: <https://lifestory.or.jp>

